



## 台風はどうなったときにできるの

### 海水の温度が高いとき

赤道付近にできた熱帯低気圧が、すべて台風になるとはかぎりません。台風になるにはまず、海水の温度が高くなければなりません。海水の温度が26～27℃以上のときでないと、海上の空気が、湿度や温度の高い空気にならないので、台風にはならないのです。風の速さが、1秒間に17.2メートル以上になったときを、台風といっています。水の温度が26～27℃以上にならないと、1秒間に17.2メートル以上の速さの風にならないので、弱い熱帯低気圧で終わってしまいます。

### 南東貿易風と北東貿易風がぶつかる所

赤道付近に向かって、1年中いつもふいている風を、貿易風といいます。南半球から赤道をこえてふいてくる南東貿易風と、北東からふいてくる北東貿易風が、北緯5～20度付近でぶつかって、雲のうずができます。ここで、台風のもとができます。

### 地球が自転しているから

台風は、うずを巻きながら上昇（上にのぼる）しています。もしも、地球が自転（自分で回る）していなかったとしたら、空気はうずを巻かずに、風がまっすぐふきこんで、そのまま上昇してしまいます。地球が自転しているので、うずを巻く台風になります。

台風ができる時のことがらを、3つ説明しましたが、この3つのことがらがそろっていても、いつも台風ができるとはかぎりません。台風ができる時のことについては、まだ、完全にはわかっていません。（監修・村山 貢司）

